

台湾で介護サービスの積極展開を進める台湾サンガ

台湾善合股份有限公司(以下、台湾サンガ)は、台湾の台南市を中心に介護関連施設や介護サービスの展開を進めている。今後は台湾での上場も計画しており、積極的に介護関連事業を推進する予定である。今回は、台湾サンガの台湾での事業内容や今後の展望について、サンガホールディングス・ジャパンの新井常務取締役と台湾サンガの葉総経理を訪ねお話を伺った。



台湾サンガの葉総経理(左)とサンガホールディングス・ジャパンの新井常務取締役(右)

ー日本での事業内容

台湾サンガは日本の元気グループのサンガホールディングス・ジャパンが台湾で合弁会社として設立した会社です。元気グループは、「共に生きる」の共通理念のもと、医療、介護福祉、教育の3分野を中心に複数の事業運営を行なっている企業グループです。そもそも日本では、1974年に臨床検査事業からスタートしています。その後、病院運営や学校運営のコンサルティングを開始、1993年に介護事業に参入しています。介護事業の開始は2000年の介護保険制度スタート以前と、日本の将来を見据えた事業展開を行ってきたと考えています。現在はトータルヘルスケアのリーディングカンパニーとしてお客様と地域社会、そして私たちが厚い信頼を元に共に助け合う共生社会の実現を目指しています。

医療事業では、地域密着型のクリニックと関連病院の運営を行っており、医療と介護を密に連携しています。病院支援として高度医療の専門性を追求しております。また、美容医療や歯科医療も展開しており、高齢者介護に大切な「口腔ケア」について、介護事業者職員とともに啓蒙活動を行っております。海外での医療事業では、アジアの医療機関とのアライアンスを進め、カンボジアの医療や保健の向上を進めています。

介護事業では、社会福祉法人の元気村グループと株式会社のサンガホールディングス・ジャパンをグループ内に持っています。元気村グループは介護度の高い方を中心に特別養護老人ホームなどの施設を運営しており、2019年9月時点で2,910床、サンガホールディングスは有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅など在宅サービスを中心に1,273床を持っています。ほかにも、医療機関関係で1,242床をもっており、居室総数では日本企業の中でトップ15位となっています。時代の変化に合わせて、在宅復帰に向けたリハビリ強化や介護技術の高度化など、たゆまぬ改善に力を入れており、医食同源の考えのもと、衛生管理や栄養バランスの取れた料理の提供も行っています。

教育事業では、元気グループのサービスを支えるスタッフの育成を行うことから始め、今では複数の学校を運営しています。アジア各国からの留学生も積極的に受け入れ、介護士や臨床技師などを育成する専門学校も運営しています。

海外事業としては、医療・介護・教育を中心に日本の思いやり、おもてなしを輸出するトータルパッケージでの展開を行っています。現在、最も事業展開が多いのが中国です。中国とは、1989年に臨床検査研修の受け入れを行うことから始めました。大連市、瀋陽市などで、高齢者介護施設展開しているほか、上海

日本企業から見た台湾

市で公設民営の高齢者施設、高齢者介護事業プロジェクトなどを推進し、そこで働く人材育成など総合的なプロジェクト展開を進めています。

ー台湾での事業内容

急速に高齢化が進む台湾において、日本での経験を活かして「医療、介護、教育」を積極的に展開し、「医、食、住、遊」を組み合わせた産業を育成することで、社会福祉サービスの質の向上を目指すとともに、新たな経済生産性を高めることができると考えました。数年にわたる努力の末、2015年11月に台湾サンガを設立することができました。

もともとはホームヘルプサービスから始め、デイサービスを今は増やしています。今後はサービス付き高齢者住宅、グループホームへと広げていきたいと考えています。エリアとしては台南市で実施しており、台南市が積極的に介護事業を進めていることもあり、市の政策に合わせて拡大をしていきたいと思っています。台南市には看護師とヘルパー、ケアプランナーなど20名以上の人員を抱えています。

台湾における介護ニーズは高いと感じています。ただ残念ながら介護保険に関する法律が整備されていないこともあり、まだ広くサービスが利用される環境にはない状態となっています。個人個人がインドネシアなど海外から来た家政婦さんを雇っていることが多いのですが、家政婦さんは介護のプロではないため、利用者のニーズを満たせていない部分があると感じています。また、費用面で地方の方の利用は厳しいという話も聞きます。この状況は高齢化の高まりと共に今後変わってくると考えており、将来のマーケットを見据えて人材育成から進めていきたいと考えています。台湾は風俗習慣や価値観が日本と近いため、日本での取り組みを活用しやすいという点があります。また台湾は介護食や栄養管理などの考え方が、日本よりも進んでいる面もあり、驚きました。

ー今後の展望について

2021年の台湾での上場に向けて現在は準備を進めています。それに備えて本年7月に、日本のサンガホールディングスもサンガホールディングス・ジャパンという名称に変更しました。親会社を作り、日本と台湾で兄弟会社となる予定です。事業面では、2024年までに台湾で20か所の施設設立を目指しています。居宅型介護サービスやデイサービス、グループホーム、短期入居施設、小規模多機能施設、サービス付き高齢者住宅など日本でも運営している様々な施設の対応が可能であり、それら施設を台湾で拡大していきたいと考えています。

ーありがとうございました

台湾サンガの基本データ

会社名	台湾善合股份有限公司 (台湾サンガ)
代表 董事長	蔡 俊明
設立	2015年11月
資本金	1億5000萬元
事業内容	介護施設・訪問介護サービス等

注)2019年9月の情報による
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理